美濃陶磁歴史館だより

連続コラム　うちんたぁのお宝、なんやね？

第22回　中上良子　エマイユ作家として

開催中の企画展「中上良子　陶磁器デザイナー・エマイユ作家として」に関連して、最後にご紹介するのは、中上良子のエマイユ作家としての側面です。

陶磁器デザイナーとして評価を得た中上は、昭和37年（1962）頃、師である日根野作三を介して名古屋の安藤七宝店にデザイン提供をするようになります。この頃の安藤七宝店は、リボン状の銀線を器面に配した伝統的な有線七宝の製品を主として手掛けていました。一方で、銀線を用いず職人の手間を省略化した比較的安価な製品展開を試み、その一つに「エマイユ」がありました。中上は、有線七宝、エマイユどちらのデザインも手掛け、その図案とそれをもとに作られた製品が今も同社に残されています。

釉薬の配色によって絵画的にモチーフを表現するエマイユの色彩に魅せられた中上は、やがてエマイユの制作に着手します。素地の銅板に施されたエッチングによる細かな文様からは、陶磁器デザイナーとしての経験が垣間見えます。一方で、銅版転写にはない鮮やかな色彩の世界が加わり、より多彩な表現へと展開していきます。自身が専門としてきた陶磁器とエマイユを融合させた作品も考案するなど、自由な発想で自身の世界をひらいていきました。昭和46年（1971）には下石町の自宅でエマイユ教室を主宰。教室の生徒と「エマイユ・シューレ」というグループを結成し、個展を毎年のように開催しました。昭和55年（1980）には、フランスのリモージュで開催された国際七宝美術ビエンナーレに初出品し、リモージュ市工芸会賞を受賞します。

季節の移ろいや身近な動植物のきらめきを取り込んだ中上良子の作品を、ぜひ展示室でご覧ください。



エマイユ額
中上良子　昭和55年頃
国際七宝美術展受賞作の類似作



エマイユ壁掛け
中上良子　昭和44年頃
陶器とエマイユを融合させた作品

企画展のご案内

中上良子
陶磁器デザイナー・エマイユ作家として

会期：8月13日(土)～11月13日(日)

同時開催：収蔵品展



美濃陶磁歴史館
(☎㊺1245)